

⑮ ほん と ちよう 先斗町通無電柱化事業

受賞機関 京都市 建設局

キーワード 道路幅員が狭小、町並み景観の保全・再生、
小型ボックス活用埋設方式

全建賞審査委員会の評価ポイント

幅員が狭小な区間における無電柱化事業。小型ボックスと管路の浅層埋設手法を導入して省スペース化を図るとともに、樹脂製の仮埋め戻し材の活用による施工の効率化や、地上機器設置への地元協力など、様々な工夫により実現し、伝統的な町並み景観と防災性の向上を実現できたことが評価された。

1. はじめに

先斗町通は京都市中心部に位置し、鴨川と東山を一望に収める地理的条件を背景に、京都でも有数の文化・遊興の中心地として発展した花街「先斗町」に相応しく、品格と賑わいを合わせ持つ独特の景観を形成している。沿道には多くのお茶屋と飲食店が混在し、現在もお茶屋建築の建物が数多く残され、京都市市街地景観整備条例に基づく「界わい景観整備地区」に指定されている。

本事業は、区間の大半が幅員2m以下の歩行者専用道である先斗町通で、関係者が一体となり地域特有の課題に挑んだ無電柱化事業である。

2. 事業の概要

先斗町通では、平成19年の京都市屋外広告物条例改正を契機に看板等の広告物が是正された結果、それまで看板に隠れていた電柱と電線類が通りの景観を損なう状態となっていた。そのため、無電柱化事業により町並み景観の保全・再生を図るとともに、道幅が狭く木造建築が密集する通りの安全で快適な通行空間の確保、防災性の向上を図ったものである。



整備前の電線類の状況（左）と整備後の先斗町通（右）

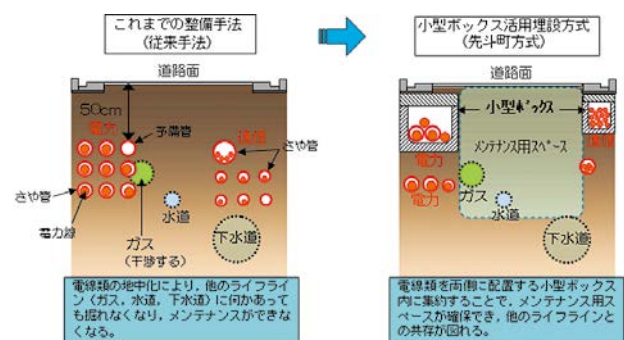
3. 事業の成果

1) 電線共同溝の埋設スペースの確保

道路幅員が狭小で、道路占用物件の埋設スペース確保

が大きな課題であったが、小型ボックスと管路の浅層埋設の低コスト手法を取り入れた独自方式を採用し、電力と通信を別々の小型ボックスに収めることにより、電線類の地中化とメンテナンス用スペースの確保を可能とした。

また、重機施工が難しい中であっても、毎日交通開放する必要があったことから、施工時間短縮のため、樹脂製の仮埋め戻し材を使用し、埋戻しや仮復旧、再掘削の施工効率化を図った。



小型ボックス（先斗町方式）の活用

2) 地元協議会等との連携

先斗町通は電力需要の密度が市内一高く、事業区間490mに31基の地上機器が必要であった。その大半は区間内の公園等に設置できたが、その他の設置場所の確保が課題であった。

そこで、関西電力送配電（株）が先斗町に特化した電力柵のコンパクト化に取り組み、先斗町まちづくり協議会等、地元と連携して沿道地権者との交渉を進めたことで、一部民有地を活用し、全31基分の設置場所を確保することができた。

また、舗装や照明灯についても、地元との検討会議を重ね、既存のデザインを踏襲するなど、花街としての先斗町通の町並みに調和し、通り全体での統一感を持たせた整備を行った。

4. おわりに

無電柱化事業を進めるにあたり、先斗町通特有の課題（幅員狭小、電力需要への対応、景観との調和）については、全国に先駆けた小型ボックス方式の採用や電力柵の縮小化、地上機器の美装化など「先斗町方式」により克服することができた。

各占用企業者をはじめ、先斗町まちづくり協議会等の協力により、本事業が無事完了を迎えたことに感謝申し上げる。